

サポートファイル「りあん」を活用したアセスメントの手引き

(放課後等デイサービスなど学齢期を対象)

※「成長の過程1, 2」では、幼少期の本人の特性がどのようなものか、又どう変化したかを記入します。

●成長の過程1 <関連の時期に斜線を記入します>

記入例>●社会性	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 集団より一人でいるのを好む	/	/		
●社会性				
1 集団より一人でいるのを好む				
2 視線が合いにくい				
3 受身的で自らは関わりを求めない				
4 積極的に関わるが一方的になりやすい				
5 友達関係を築きにくい				
6 周囲の人の感情に気づきにくい				
7 集団の中で浮きやすい				
8 常識や暗黙の了解がわかりにくい				
9 身づくろい・身の回りの事に無頓着である				
10 口喧嘩や邪魔をする・トラブルが多い				
11 自分が非難されると過剰に反応する				
12 からかわれやすい・いじめを受けやすい				
その他				
●コミュニケーション				
1 表情が乏しい・不自然				
2 言葉での指示は理解が難しい				
3 細部にこだわりの難しい言葉を使う				
4 自分の興味あることを相手機わす話す				
5 言外の意味や皮肉を理解できない				
6 言葉使い・声の調子や音が独特である				
7 会話が一方通行・応答にならない				
8 共感する動作が少ない〜うなずく・身振り等				
9 状況に関係なく周りが困惑することを言う				
10 独り言が多い				
その他				
●イマジネーション				
1 手を振るなどの常同行動がある				
2 物集めや情報記憶に熱中する				
3 お決まりの行動パターンがある				
4 変化を嫌い、いつも通りを好む				
5 初めての場所や人は苦手である				
6 興味を示すものに偏りがある				
7 気持ちの切り替えが苦手である				
8 突然の事や急な予定変更は混乱する				
9 物のある一部等に注意が向き、没頭してしまう				
その他				

()さんのファイル 記入者氏名() 続柄() 記入年月日(年 月 日)

「成長の過程1, 2」について

本人の発達障害の大まかな特性や、適応状態を把握出来るようになっていきます。(詳しい状態整理は、「Ⅱ現在の状態①」で行います。先に「現在の状態①」で状態整理を行うと、記入しやすいでしょう。)

発達障害のある人は、幼児期に現れていた特性が、発達とともに目立たなくなっていくことがあります。しかし、不適切な支援や環境下に置かれると調子を崩し、特性が強く現れたり、出来ていたことが出来なくなったりします。幼児期の情報、各ライフステージごとの情報を把握しておく、ご本人の今の状態を理解する手掛かりとなります。

<各カテゴリーについて>

・「社会性」、「コミュニケーション」、「イマジネーション」、「感覚過敏」は、自閉症スペクトラム(自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群)の主な特性です。

・「不注意・多動・衝動性」は、AD/HD 注意欠如多動症(注意欠陥多動性障害)の主な特性です。

・「その他」には、限局性学習症(学習障害)の特性や、運動面、知的機能のアンバランスなどの特性が含まれています。

・「困った行動」には、自傷や他傷行動などの行動問題の有無を記載します。

<記入の仕方>

- ・各項目にある行動の変化が見られた時期に斜線を引きます。
- ・気付いた事や特記事項はその他に記入します。「いつ頃」「どのような様子があったか」を記入します。

		項目についての補足説明
●社会性	5 友達関係を築きにくい	・年上や年下の人とばかり遊び、同級生との関係を気づきにくい場合なども含まれます。
●コミュニケーション		・「独特のイントネーション」や、「エコリア(オウム返し)」、「繰り返し同じことを聞く」などの特徴や、「言葉がない場合」や、「幼児期の言葉の遅れの有無」などは、「その他」に記載しておきましょう。
●イマジネーション	1 手を振るなどの常同行動がある	・常同行動とは、手をひらひらとさせたり、上半身を揺すったり、繰り返し飛び跳ねるなど、身体を同じやり方で繰り返し動かす行動のことをいいます。
	4 変化を嫌い、いつも通りを好む	・順番、やり方、人、場所、物の配置や物の状態の変化、衣替えなど、様々な変化が含まれます。
	6 興味を示すものに偏りがある	・年齢相応でないものや、通常は興味の対象とならないものに興味をもったり、特定のジャンルのものに強く関心を示すことなどがあります。
	7 気持ちの切り替えが苦手である	・している事を中断して、次の行動に移ることが難しい場合や、なかなか気分転換が出来ず、気持ち切り替えのに時間がかかる場合などが含まれます。
	9 物のある一部分に注意が向き、没頭してしまう	・物を本来の目的とは違うやり方で繰り返し扱うことなどを言います。(例:本のページめくりや紙破りに没頭する、エレベーターのボタンを繰り返し押す、物の一部を見つめ続けたり繰り返し触る、ビデオの特定場面を繰り返し見るなど。) ・感覚あそびへの没頭がある場合は、「その他」に記載しておきましょう。

●成長の過程2 <関連の時期に斜線を記入します>

●感覚過敏	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 耳ふさぎや音に敏感(鈍) 感な様子がある				
2 光や回るもの・鏡などの刺激を好む				
3 水などの特定の触感を好む(嫌う)				
4 物のおいをよく嗅ぐ				
5 特定の味覚や食感を好む(嫌う)				
6 痛みに敏感(鈍) 感である				
7 暑さ・寒さに敏感(鈍) 感である				
その他				
●不注意・多動・衝動性	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 うっかりミスが多い				
2 注意を集中し続けることが難しい				
3 話しかけても聞いていないようにみえる				
4 仕事をやり遂げることが難しい				
5 物事を順序立てて行うことが難しい				
6 努力を要する課題を避ける				
7 なくし物が多い				
8 注意がそれやすい				
9 忘れっぽい				
10 手足をそわそわ・もじもじすることが多い				
11 静かな活動に参加することが難しい				
12 じっとしていない				
13 しゃべりすぎる				
14 質問が終わる前に答えてしまう				
15 整理や片付けができない				
その他				
●その他	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 体の使い方がぎこちない				
2 手先が不器用である				
3 寝つきが悪かったり眠りが浅い				
4 偏食や過食がある				
5 書くことがとても苦手である				
6 読むことがとても苦手である				
7 歩き方・姿勢の異常がある				
8 人の顔が覚えられない				
9 興味のある分野の知識が豊富である				
その他				
●困った行動	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 自分を傷つける				
2 他人に粗暴な行為をする				
3 物を壊す				
4 水分を多飲する				
5 性的な行動が逸脱している				
その他				

() さんのファイル 記入者氏名() 続柄() 記入年月日(年 月 日)

項目についての補足説明	
●感覚過敏	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚が過敏であったり、鈍感であったりします。 ・聴覚、視覚、嗅覚、味覚、触覚のほか、気温や気圧の変化に影響を受けやすい場合や、前庭覚や固有受容覚に特徴をもつことがあります。 ・前庭覚とは、自分の身体の傾きやスピード、回転を感じる感覚で、ちょっとした揺れで気分が悪くなる場合や、激しく回転しても目が回らないことがあります。 ・固有受容覚とは、自分の身体の位置や動き、力の入れ具合を感じる感覚です。身体をぎゅっと締め付けられるような感覚が好きな場合や、力のコントロールが出来にくく物をすぐに壊してしまう、自身のボディイメージが弱く、身体をよくぶつける事などがあります。
●その他	<p>4 偏食や過食がある</p> <p>5 書くことがとても苦手である</p> <p>6 読むことがとても苦手である</p> <p>9 興味のある分野の知識が豊富である</p>
●困った行動	

感覚過敏の「5 特定の味覚や食感を好む(嫌う)」とも重なりますが、食事に関する特記(小食や、食に関する関心がないなど)がある場合は、「その他」に記載します。

本人の発達年齢を踏まえ、発達年齢に応じた能力を評価します。

バスの路線や時刻表、カレンダー計算、アニメなど、突出した能力や知識(ピークスキル)を持っている場合があります。

・挙げられている行動以外にも、困った行動がある場合は、「その他」に記載します。

II. 現在の状態 ①

●所属機関

所属機関名(学年)：	所属機関先：〒
------------	---------

●健康

●身長() cm ・ 体重() kg ・ 平熱() 度
●現在の健康状態 < 心臓疾患・てんかん発作・ぜんそく発作・アトピー・その他の疾患() > 具体的な症状と対処方法：
●アレルギーの有無 < 食物・動物・植物・ハウスダスト・その他() > 具体的な症状と対処方法：
●服薬の有無 < 有 ・ 無 > ※医療機関に関する情報は、P28 へ。 管理・服薬の仕方：
●「痛み」「不快」(頭痛・歯痛・吐き気・熱・鼻血などの症状)の訴え方 観察のポイントと対処方法：
●治療に関しての特記(治療に関する約束や手順など)
●睡眠について

●食事

●食欲や偏食 (あり ・ なし)
●好きな食べ物・飲み物(成人期の場合は、嗜好品も含む)
●苦手な食べ物・飲み物

() さんのファイル 記入者氏名() 続柄() 記入年月日(年 月 日)
#

●日常生活能力

項目	一人でできる	部分的にできる	できない	備考（必要な援助等）
例) 服を着る		○		例) ボタン付きの服は使えない
●食事				
1 スプーンやフォークで食べる				
2 箸で食べる				
3 ストローやコップで飲み物を飲む				
4 ジュースなどの飲み物をコップに注ぐ				
5 口を開けて食べる				
6				
7				
●排泄				
1 トイレで排尿する				
2 トイレで排便する				
3 排尿・便の後始末を適切にする				
4 生理の後始末をする				
5 おむつやパンツに大小便をしたときに、伝える				
6 尿意や便意を伝える				
7 誘導がなくても、自分でトイレに行く				
8 男性用・女性用トイレの区別が付き、使用できる				
9				
10				
●セルフケア				
1 顔を洗う				
2 歯磨きをする				
3 髪を整える				
4 ひげを剃る				
5 爪を切る				
6 入浴し、髪や体を洗う				
7 体を拭いたり、髪を乾かす				
8 不調を訴える				
9 汚れた衣服を自発的に着替える				
10 薬の管理をする				
11				
12				
13				
14				
15				

●「日常生活能力」

このページでは、身辺自立や家庭生活スキル等を評価します。番号が網掛けになっている個所は、「りあん」に記載されていない項目です。その他にも、不足している項目があれば、新たに追加して記入しましょう。

<記入の仕方>

- ・「一人でできる」、「部分的にできる」、「できない」の3段階で評価します。
- ・「一人でできる」とは、生活の中で声掛けがなくても、自発的に行える場合にチェックします。声掛けや、部分的に手伝いが必要な場合は、「部分的にできる」にチェックし、具体的な状態や必要な支援を、備考欄に記載しておきましょう。

<目標設定の仕方>

- ・「できない」ことは、本人の発達段階や障害特性上、今は習得が難しい可能性があります。目標を設定する場合は、「部分的に出来る」ところの中から、少し頑張れば出来そうなところを次の目標とすると良いと思います。
- ・目標設定の際には、そのスキルを習得することで、本人や家族にとってメリットがあるのかなど、優先順位を考え、目標が多くなり過ぎないようにすることも大切です。

●着脱				
1	服を脱ぐ			
2	服を着る			
2-a	フルオーバーや、ボタン付きのシャツを着る			
2-b	ズボン（スカート）を着る			
3	季節やTPOに合わせた服を選ぶ			
4	靴下や靴を履く			
5	スナップやボタンをとめる			
6	ジャンパーのファスナーを開け閉めする			
7				
8				
●家事				
1	洗濯をする			
1-a	洗濯物を取り込む			
1-b	洗濯物をたたむ			
1-c	洗濯機を使用して洗う			
1-d	洗濯物を選択方法別に仕分ける			
2	掃除をする			
2-a	テーブルを拭く			
2-b	床を箒で掃く			
2-c	床を雑巾で拭く			
2-d	掃除機をかける			
3	食器を洗う			
3-a	食後の食器を流しにさげる			
3-b	スポンジと洗剤を使用して食器を洗う			
3-c	洗った食器を拭く			
3-d	食器を所定の場所に片付ける			
4	買物をする			
4-a	硬貨や紙幣の種類がわかる			
4-b	値段を理解し、必要な金額を支払うことができる			
4-c	お釣りがわかる			
4-d	頼まれた物を買ってることができる			
5	簡単な調理をする			
5-a	カップ麺をつくることができる			
5-b	皮むき器を使って、皮をむくことができる			
5-c	包丁を安全に使用することがえられる			
6	片付けができる			
6-a	鞆や持ち物を所定の場所に収納する			
6-b	脱いだ服を片付ける			
7				
8				
9				

●その他				
1	ひとりで留守番をする			
2	戸締りをする			
3	金銭管理をする			
4	公共交通機関を利用する			
5	電話をかける			
6	時計を見て時間がわかる			
7	カレンダーを見て月日や曜日がわかる			
8	スポーツや旅行など趣味の活動を行う			
9	火や刃物などの危険物を認知する			
10	自由な時間を一人で過ごす			
11	慣れた場所であれば、一人で目的地まで歩いて行くことができる			
12				
13				
#				
#				

() さんのファイル 記入者氏名 () 続柄 () 記入年月日 (年 月 日)

●人との関わり

●家族との関わり：
●友人（同世代の人）との関わり：
●周りの大人（先生や支援者など）との関わり：
●知らない人との関わり：
●社会的常識・ルールの理解：

●コミュニケーション

◇主なコミュニケーションの方法（○をつける） 実物 絵 写真 文字 言葉 ジェスチャー その他（ ）	
●本人から相手に伝えるとき	●相手から本人へ伝えるとき
《要求》	《要求》
《注意喚起》	《注意喚起（気づいてほしいとき）》
《拒否の仕方》	《してはいけないことの伝え方》
《その他（特徴、支援のてがかり）》	《その他（特徴、支援のてがかり）》
（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ 年 月 日）	

「●人とかかわり」では、対人面の様子を観察、評価します。以下のような視点を参考にしてください。

<感情表現>

- ・感情を表しますか(笑う、泣く、叫ぶなど)。
- ・自分の気持ちを適切に表現していますか(嫌な時にも笑う、いつも無表情など、気持ちを表現する方法が独特なことがあります)。
- ・特定の人を好む、好意を示す(笑う、身体接触するなど)あるいは、避けることがあります。
- ・身近な家族が見えないときに、探しますか。
- ・身近な人の好きなことや嫌いなこと、機嫌や感情がわかりますか。

<模倣>

- ・周りの人の行動を真似ますか。

<友達との関係>

- ・子どもが遊んでいる様子に興味を示したり、自分から近づいていき働きかけますか。
- ・友人の顔や名前を認識していますか。 ・仲の良い友だちがいたり、好意を示すことがありますか。
- ・相手が困っている時に、手を差し出したり、「大丈夫？」と気遣いを示しますか。
- ・相手に良いことがあった時に、「よかったね」などの肯定的な言葉がかけられますか。

「●コミュニケーション」では、「本人から相手に伝えるとき」(表出性のコミュニケーション)と、「相手から本人へ伝えるとき」(受容性のコミュニケーション)の評価をします。

自閉症の方の中には、文字や文章が上手に読めたり、日常的な会話に問題がないように見えても、あまり理解ができていない等のアンバランスさを持つ場合があります。

自分の気持ちを伝えられることや、相手の話がわかることは、問題行動を防止する上でも大変重要な因子となります。フォーマルな評価を参考にすることが出来ない場合も、所属機関の中でできる評価を行い、「分かる」、「伝わる」というやりとりの成功経験を重ねられるように支援していくことが大切です。

<評価の際の視点>

●本人から相手に伝えるとき

<要求・拒否の仕方>どのような方法で相手に伝えるかを観察します。要求がうまく伝えられない場合も、選択肢を示すと、欲しいものやしたい活動を選べる場合があります。

<注意喚起>相手の前まで行く、相手の名前を呼ぶ(○○さん、先生など)、肩を叩く、ねえねえと言うなど、相手の注意をひくことができているかを確認します。独り言のように、相手に伝わりにくい方法で伝えている場合は、注意喚起がうまくできていないといえます。

<その他>独り言が多い、独特のイントネーション、声のボリューム調整が出来にくい、説明はできるが自分の気持ちが言えない、説明する際に時系列に話したり、誰が誰にといった説明ができないなどの特徴があれば記載します。

言葉がない、咄嗟の時に肝心なことを言えないなどにより、カード等を用いている場合なども記載します。

●相手から本人に伝えるとき

<要求>指示やして欲しいことがあるときに、どのように伝えればよいか記載します。言葉でわかるのか、写真や、絵、具体物が良いのかは、実際に生活場面で評価することができます。評価の際は視線やジェスチャーなどのヒントを与えずに、言葉だけで伝わるかなどを実際に試してみると評価が可能です。

<注意喚起>名前を呼べば聞くことが出来るか、強く注意を引き付けなければならないのかなどを観察します。

<してはいけないことの伝え方>「だめ」などの否定的なことばだと受け入れにくい場合や、ことばではなくジェスチャーの方が良い場合などがあります。本人が理解できない場合、理解できても切り替えられない場合は、その旨を記載します。

<その他>文章が書けるのに、耳で聴きとること(聴覚情報処理)がうまくできない人等があります。どれくらい文章が理解できるのかや、指示は何段階まで実行可能かなどを確認します。

●行動特性

●得意なこと・興味・関心のあること、物：
●苦手なこと、物：
●こだわりのある物、行動：
●常同行動（いつも決まってる行動、繰り返す行動）：
●不安・恐れるもの：
●予想外の事への反応、急な変化への反応：
●多動・不注意・衝動性《忘れ物・整理整頓などを含む》（有・無・わからない）
●寡動《行動にとりかかれない。その場から動かない》（有・無・わからない）
●緘黙《人や場面によっては全くしゃべらない》（有・無・わからない）
●自傷（有・無・わからない）
●他害（有・無・わからない）
●パニック（有・無・わからない）
●気になる行動（有・無・わからない）
●その他（特徴、支援のてがかり）

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ ）年（ ）月（ ）日

●行動特性

行動はできるだけ具体的に表記しましょう。いつ、どこで、どのような状態になるのか、その行動の強さ、理由が判る場合は理由も併せて記入しましょう。

●こだわりのある物、行動

同一性の保持といわれる特性です。同じ場所、時間、順序等で物事を行うなどにこだわる場合があります。特定の物や人にこだわったり、物の置き場所、並べることこだわる場合もあります。同じであることや、秩序だっている方が安心できると言われています。

●「常同行動」について

代表的な常同行動には、手をひらひらと振る、手を叩く、体を前後に動かす、同じ言葉を喋り続ける、同じ場所を行ったり来たりする、クルクルとその場で回る、跳びはねる」など様々です。こだわりは、本人や周囲にとって支障のないものであれば、見守っていたほうが良い場合が多いです。

●予想外の事への反応、急な変化への反応

予定や日課、手順や道順、教室などの場所や、担任など人の変更などが行われた時に、パニックになったり、不安な様子で、動きが止まってしまう場合などがあります。

●多動、不注意、衝動性(同年齢の子どもに比べて、過剰に以下のような行動が見られるかを確認します)

多動:手を離すとどこかへ行ってしまう、いつも体の一部が動いている、いつもお喋りしているなどです。
不注意:忘れ物が多い、予定や約束を忘れる、物をよくなくす、他のことに気を取られ話を聞いていない、身体をよく物にぶつけるなどが含まれます。

衝動性:相手が話し終わらないうちに発言してしまう、確認せずに道路を渡ったり、危険な行動をしてしまう、待つことや我慢が出来ずに行動を起こしてしまうことなどがあります。
整理整頓や手順が身につかない等の特性があれば、併せて記載します。

●「寡動」～「気になる行動」

どのような行動が起こるのか、どのような時に、どれくらいの強さや頻度で生起するのか、原因や対応方法がわかる場合は併せて記載します。

●「気になる行動」の例

- ・特定の人に対する過度の依存がある
- ・学校や所属機関に行くのを拒否する
- ・過度に不安または神経質である
- ・理由がないのに悲しがる
- ・全体に活気や興味が乏しい
- ・かんしゃくを起こす
- ・いつも不機嫌である
- ・周囲の人を侮辱したり、からかったり、いじめたりする
- ・嘘をつく
- ・人の物や店の物を、許可なく使用したり、盗む
- ・他の人の働きかけに対して、故意に逆らったり、無視したりする
- ・知らない人に対して、過度に親しげに振る舞う
- ・性的な逸脱行動がある(露出、公的な場での自慰行為、不適切な性的交渉など)
- ・妄想や幻覚などがある
- ・周囲からの働きかけや、置かれた状況を、被害的に捉えがちである
- ・指しゃぶりや爪噛みをする
- ・チックがある
- ・奇妙な癖ややり方、話し方がある

●感覚

◇感覚の問題や配慮すべき点（各項目に○をつける）
●視覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：光や太陽に反応する、換気扇など回転するものを見る、鏡を見入る、など》
●聴覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：大声や泣き声を嫌う（怖がる）、嫌いな音に対して耳をふさぐ、雨の音など小さな音を騒音に感じる、など》
●触覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：人に触られることを嫌う、水圧を楽しむ、爪切りをすると痛がる、など》
●味覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：何でも口に入れたがる、異食、偏食、など》
●臭覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：物の臭いを嗅ぐ》
●温度覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：暑さや寒さに敏感・鈍感》
●痛覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：痛みに敏感・鈍感》
●その他
《例：ぐるぐる回ることが好き、ギューッと圧迫される感覚を好む、狭い場所が落ち着く、特定の音が苦手、など》

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ 年 月 日）

●感覚 感覚の過敏や鈍麻がないかを評価します。感覚面では、様々な感覚において、過敏タイプ、鈍感タイプ、感覚刺激を強く求めるタイプ、感覚刺激を回避しようとするタイプがあります。どのタイプかも併せて評価します。

●視覚

・視線を避ける、物や人を凝視する、暗いところを好む、明るい光を避ける（目を細めたり閉じたりする）、物がたくさんあると中から探すときにイライラすることなどもあります。
 ・階段の上り下りをする際にためらう、色を塗ったり字を書く際に枠からはみ出る、書いた字が読みにくい場合など、相乗情報の処理に困難がある可能性がありますため、注音深く観察する必要があります

●聴覚

・突然の音や大きな音に拒絶反応を示す、普通は気が付かないような音（電化製品の音など）をうるさいと感じる、音がしていると気が散って集中できない、あるいは大きな音や聞きなれない音がしても反応がない、聴覚に問題はないのに、名前を呼ばれても反応しない、聞いていないように見えることなどもあります。

●触覚

・べたべたした感触や汚れることを極端に嫌う、特定の生地や衣類のタグを嫌がったり、靴下を嫌がる、身体にぴったり密着するような服を嫌う場合などがあります。その他、気候に関係なく薄着あるいは厚着する、身体に触られているのに気が付かない、汚れたり、濡れていても気にならない、服が裏返しやねじれていても気が付かない場合などがあります

●味覚

・味に敏感で、特定の味を嫌う、特定の物しか食べたがらない(偏食)ことがあります。
 ・食べ物ではないものをなめたり、噛んだり、飲み込んだりする(異食)ことがあります。

●嗅覚

・強いにおいがしているのに気づいていない様子がある、特定のにおいを非常に好む、微かなにおいでも気が付くなどがあります。

●温度覚

・暑さや寒さ、湿度や気圧等によって影響を受けやすい場合、気候や室温によって、イライラしたり、気分が落ち込んだりして、活動レベルが下がってしまうことがあります。

●痛覚

・ちょっとした傷や体の変化でも敏感に感じてしまう人や、反対に痛みや体の変化に対して鈍感な人もいます。痛みに鈍感な場合は、周囲も気が付かないうちに重症化してしまうことがあります。

●その他

・遊具の強い揺れや回転を好む場合や、ちょっとした揺れも苦手な場合があります。揺れが苦手な人は車に乗ることが苦手なことなどがあります。
 ・身体の使用方では、つま先で(踵を浮かし)歩く、動きがかわいい、筋力が弱いように見えるなどが見られます

・自閉症スペクトラムの方の場合、過敏があることで、疲れやすかったり、体調を崩したりして、本来の能力が発揮できないことがあります。

・”苦手な感覚に慣れる”ことはなかなか難しく、無理すると、過敏が増す恐れもあるため、道具や環境の工夫により、苦手な刺激は、除去したり、低減できるような方法を用いる必要があります。

例) 偏食は、無理のない支援を行うことで、年齢とともに軽減されていくことも多いです。

聴覚過敏には、耳栓やイヤーマフ、ノイズキャンセリングヘッドフォンの使用が有効です。

